

令和3年5月10日

未来への扉20

校長 平野 雅仁

みなさんおはようございます。

新型コロナウイルス感染症の猛威が、なかなか収まりません。変異した新種のウイルスは、感染力も強度化しています。第4波を抑え込むために緊急事態宣言が発出されていますが、ワクチン接種の遅れもあり、感染者数が抑えられずにいます。今月末までを目途にさらに緊急事態宣言の延長が決定されています。

本校でも学習発表（運動の部）を今週末に控えていますが、緊急事態宣言下では、浜町グラウンドの使用ができず、延期を余儀なくされています。15日は、変更して、平常授業4時間を予定しています。詳細については、本日、配布する通知に記載しておりますので、保護者にもお知らせください。

さて、このような感染症の歴史・世界的なパンデミックは、過去にもありました。天然痘やはしか、100年前のスペイン風邪にもたくさんの歴史的な教訓を残しています。私たちが過去の経験や歴史から学ぶことは非常に大切なことだと思います。ジャーナリストとして、活躍している池上彰さんも様々な著書で教養・学ぶことの重要性を述べています。

「教養とは、過去に学び、未来に生かす技術である。」

『大人の教養』NHK出版新書

「新しい知識として、すぐ役立つものは、すぐに役立たなくなってしまう。すぐ役立つ知識よりも後まで、ずっと役立つ教養・教育が必要である。」

『学び続ける力』講談社現代新書

さらに「常識」とは、今までにあるルールを守って現実を肯定するときには、強みであるが、今の世の中を引っ繰り返したり、つくり変えていく力はない。

「教養」は、過去の歴史を踏まえて、世の中を変革していく力になる。

ですから、私たちは、学び続けなければならない。人は、学び続ける限り、生きている限り、人生を豊かに支え、成長を続けることが必要なのだ。

最後に、池上彰さんの「教養・学び」についての3つの定義です。

- ① 与えられた前提を疑い、正解のない現実社会の問題と答えを探る能力
- ② 新しいルールを創造する能力
- ③ 自然環境の変化に対応する能力

わかりやすい解説やたくさんの著書で知られる池上彰さんですが、私たちも学び続けることを常に心がけ、今の困難な時代に一筋の光を見出し、未来に向かって歩み続けていきたいと思います。

（全校朝礼講話より）